

令和3年度 第2回 京丹波町子ども・子育て審議会 議事概要

日時：令和4年1月20日（木） 午後1時15分～午後3時20分

場所：京丹波町役場2階 大会議室

出席委員：11名

欠席委員：8名

1 開会

2 会長・副会長の選出

第1回審議会の書面決議の結果、会長に大塚正広委員、副会長に佐藤明美委員を選出。

3 会長あいさつ

会 長：前年度の子ども・子育て審議会の会長をしていた。改めて会長として就任した。微力ではあるが、本年度も京丹波町の子ども子育てについて皆様と一緒にがんばらせていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願ひしたい。

本日については、令和3年度の第2回目の審議会になるが、第1回目を対面で開催することができず、何とか対面で1回開催したいという思いでこのような厳しい状況の中ではあるが感染予防対策をしながら開催をさせていただいたところである。今日は、畠中町長にも来ていただき、本町のスタートにふさわしい、審議会のスタートとなった。大変雪が降り、出づらい時ではあるが、ご参加いただいた皆様につきましては感謝を申し上げます。ご存じのとおり、新型コロナウイルスが急速な拡大を続けている中、本日も出席を予定しながら、新型コロナウイルス感染症の対策会議のために欠席をやむなくとなった方もおられる。その点もご了承いただきたいと思っている。私たちとすれば、感染をしない、させないという対策を各自留意しながら進めていかざるを得ない、大変厳しい時代になったのだと思っている。

とはいうものの、コロナ禍での生活習慣が変容をして社会不安が増大しているが、このことがそのまま家庭環境、子どもを取り巻く環境に大きな影響を及ぼしていることは間違いない事実である。貧困家庭が増大している問題、さらには新聞報道によると2020年度の全国の国公立・私立の小中学校で30日以上欠席した不登校の児童生徒は19万人を超えたという報道がされた。前年度よりも1万人ほど増え、過去最多となった。また、京都府内においても3,810人となり、過去最多である。こうした状況で子どもが非常に厳しい現実には追い込まれている状況は、我々がこの審議会を通して真剣に立ち向かわなければいけない大きな課題であると考えている。この後、本日お見えいただいている原先生からも言及されると思うが、コロナ禍において私たち大人が子ども、そして子育てにどう向き合うのかということである。非常に大きな課題になってくると思っている。本日はメンバーも新たにスタートする審議会であるが、前年度に引き続き、テーマである「地域子どもたちを地域力で守り育てる」という使命感を持って皆様とともに本会を進めていきたいと考えている。皆様には本日の感想

等もお寄せいただければと思っている。より充実した審議会になることをお願いするとともに、後になるが、本日大変お忙しい中ご講演をいただき、講師の原先生に感謝を申し上げまして挨拶とさせていただきます。

4 町長あいさつ

島中町長あいさつ

5 講演

「コロナ禍の生活が子どもに与えている影響」

講師：佛教大学副学長 原 清治 教授

【概要】

- ・コロナ禍において子どもたちの間でオンラインゲームが流行しているが、その影で課金に関する問題や、オンライン上での友人関係のトラブルやいじめが増加している。
- ・一方で、不登校児童・生徒の「再」登校現象がみられるようになった。その要因として、新型コロナウイルスの影響によりみんながマスクをし、みんなが不登校になったことで、自分だけが変だとは思わなくなったことや、感染拡大防止対策としての時差登校や分散登校が再登校の支援に必要なスモールステップの手法と合致したことによると考えられる。
- ・「困っているひとはここに来てください」ではなく、「困っている人がいたら、こちらから行きましょうか？」というのがアウトリーチ型の支援であり、国が今後の支援の方向性として考え始めている方法である。他市町村では、別室登校ができる場所を学校外に作っているところもある。これまで学校にこれなかった子に対して「学校に来て」と言っても来ることができないのと同じで、支援する側から「どうする？」と提案する発想が今後の子育て審議会においても必要となってくると思われる。
- ・ネットいじめについては、5年間の間で特徴が変化している。2015年では偏差値が比較的高い学校ではネットいじめを行う生徒が少数であったが、2020年には増加している。勉強はできるが、受験においては、さらに上位の偏差値の層には学力で劣るため、内申点をよくするために常に良い生徒でいないといけないという葛藤やストレスから、いじめを行う生徒が多くなったと考えられている。
- ・さらに、コロナ禍においては、児童虐待、ヤングケアラー、子どもの貧困なども増加している。子どもの貧困については、教育への影響や就職等の機会の喪失、親世代から子世代への連鎖等、子どもの将来にも大きく影響が及ぶ。
- ・Z世代と呼ばれる現代の若者は、「人の役に立ちたい」と思う人が多く、助けあう思いが強い特徴があるが、一方で、「そのためにどうすればよいか？」という発想は難しい傾向がある。
- ・想像する力、まわりの人とやりとりができる力、多様性に対する寛容性を身に付けるためには、小さいころからの教育が非常に大切であり、幼児期に得た否認知的能力（数値化できない、生きていくために必要な能力）は、大人になってからの所得や幸せにつながると言われている。
- ・ほめる教育を行うと、子どもの自尊心が育つと言われているが、結果をほめるのではなく、結果に至るまでの過程など、具体的に達成した部分を挙げてほめることが重要である。また、子どもと1対1で個別最適化して対応し、自分と向き合ってくれていると子どもが思えるようにすることで子どもたちの自己肯定感が高まる。

- ・コロナ禍により広まっているオンライン学習は、大勢で受けていても1対1の状況を作り出すことができ、また学生がカメラをオフにすることで「人に見られている」という感覚がなくなるため、積極的に発言ができるようになるなど、良い効果も生んでいる。実際に、オンライン学習により学力が上がった大学もある。これは、親子との関係でも言えることであり、親が子どもの話をちゃんと聞いているというメッセージを伝えることが大切。
- ・学校等で教え合い、助け合いながらやりとりができる環境を作れるようにするためには、幼児期からの教育が大切。お互いに助け合える子どもたちを育てることができるよう、本審議会で熱く審議していただけたらと思う。

会 長：原先生のお話は何度聞いても、新しい情報を入れていただいて、説得力のあるお話でした。様々なご意見もあろうかと思うが、お配りしている感想記入用紙に、先生に聞きたかったことや感想などを記載していただきたい。私が非常に勉強になったのは、アウトリーチという新しい取り組み方、「待ちの姿勢」から「攻めの姿勢」つまり、困っている人は自らの足で動くことができない。だれが察知して、近づいていくか。外側から攻めていく、近づいていく方法を子ども・子育て審議会においても使わないといけな。それぞれの部署からそれぞれの力量のある方々に集まっていたため、何らかの形で見える化にしていきたいと思っている。教育の問題は、学校の先生方にもこのような講演を聞いていただきたいという思いもあるが、学校以外の方にもお集まりいただいていることから一般的な内容で講演をしていただいた。本当に大切な話が多く含まれていたと思う。この後も、先生はリモートでのお仕事が残っておられるということで、そのようなお忙しい中、本日来ていただいた。熱いメッセージを私たちに与えていただいた。今一度感謝を申し上げる。

6 自己紹介・感想

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、割愛

7 第1回審議会（書面開催）の実施報告

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、割愛

8 閉会あいさつ（副会長）

副 会 長：本日も参加いただいた委員の皆様、原先生の講演、そして第2回目の審議会の顔合わせということで、大変お疲れ様でした。第6波のコロナ感染の全国的な増加と年末から京丹波町も雪に見舞われて、ここ3日間も大雪という状況の中でご出席いただき、大変ありがとうございます。子ども・子育て審議会の副会長という大役を、会長、事務局のお助けをいただきながら務めたいと思う。

本日の原先生のお話にあったように、コロナという感染症の中から知りえたことを学びとし、活かし、共に豊かな生活を取り戻していけるようにできたらと思う。これまで幼児教育に携わってきたが、原先生のお話を、胸に刺さる思いをしながら聞かせていただいた。その中で一番感じたことは、いつでも、いつからでもやり直しができるということ子どもたちに伝え、世

の中の意識も変えていかないといけないと思った。本日の学びを地域や各団体に発信していただくよう委員の皆様をお願いしたい。

第2期の子ども・子育て支援事業計画にも記載のあるように、本計画は会長の思いのつまった「かかわり愛（合い）・かまい愛（合い）・つながり愛（合い）」という3つの愛（合い）を大事にして審議会を進めていきたいという思いで策定した。「かまい愛（合い）」の部分はコロナ禍でできにくい状況ではあるが、本日の原先生のお話にもあったように、私たちから出かけていき、声を掛けていき、つながりを作っていくことの大事さを感じながら審議会も進めていけたらと思う。

今後も感染対策に万全を期していただき、それぞれの立場で子どもたちと子育て世代の支援・応援をしていただくようお願いしたい。

閉 会